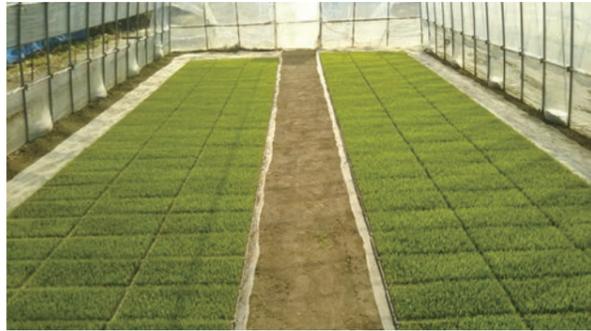


水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験



JAそらち南

川辺 孝則



左 試験区 右 慣行区

試験目的

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

試験作物 及び品種

水稲

試験資材 及び数量(規格)

クミアイこめパワーマット 13mm厚

慣行資材

クミアイこめパワーマット 16mm厚

栽培方法

播種日	定植日
慣行区:4月15日 試験区:4月15日	慣行区:5月25日 試験区:5月25日

資材使用期間

4月15日~5月25日

試験区面積

16㎡



試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)
薄くて強度がないため、本田移植時にたくさん割れや崩れ等が発生した。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響
生育については差は見られなかった。
薄い分保水性が若干低いと感じた。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について
【優位点】：特になし。
【問題点】：特になし。
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について
慣行品よりも、明らかに弱かった。
- (5)促成・抑制効果について
慣行品と差は見られなかった。
- (6)保温効果について
慣行品と差は見られなかった。
- (7)雑草・病害虫の発生について
慣行品と差は見られなかった。

モニター感想

薄いことによる強度不足で移植の際に苦労した。試験品はいくら安くなっても使用しないと思う。

JA担当者の感想(由仁宮農センター 古賀氏)

今年度、当地区では複数の生産者に試験を依頼したが、大半が良い結果を得られなかった。また、播種時の覆土の調整でも苦労されている方が多く、薄型の導入は慎重に行うべきであると考えている。
薄型のメリットでコストの低減と言っているが覆土が増えるとコスト低減にはつながらないし、重量も増えるので作業の負担増になってしまう。
覆土の調整はすべて薄型に変更してしまえば可能だと思うが、今後普及させるには移植時の割れや崩れを改善できないと普及は厳しいどころか苗の欠株などによる収量の影響が懸念される。

今後の使用について

普及しないと思う。
今の強度では使用は難しいと思う。

- 1 高温対策
- 2 青虫忌避効果
- 3 調光フィルム
- 4 ネット広幅
- 5 クリネート
- 6 マルチ
- 7 不織布
- 8 育苗資材
- 9 酪農資材
- 10 その他